



知の探究

総合的な探究の時間に行われている「知の探究」の令和5年度発表会が行われ、各学年の最優秀作品が決まった。

好奇心の大切さ

3年 山須田 優ゆう

私たちは「ぼうろの秘めた可能性」ゆりかごから幕場まで生涯ぼうろの生活」というテーマで研究を行いました。この研究は、私がぼうろの気持ちを切実に歌った東京ハイジさんの「ボウロのうた」という曲に心を打たれ、ぼうろに興味を持ったことをきっかけに、他の班員がぼうろの性質と現在の社会状況を照らし合わせ、さまざまな活用方法を考えたことから始まりました。

探究活動では研究の性質上、グループ内での意見交換が結論を決定づける最も重要な過程でした。調査を進め、話し合いを重ねるごとに、本来の研究の目的が曖昧になったときもありましたが、その度にみんなで根気強く意見交換を行い、ぼうろという一つの視点から社会をより広く捉えることができました。ぼうろの研究を「面白い」と言ってもらえたら世界を広げてくれたグループのみんなとの研究はとても楽しかったです。

今回の探究活動で得た知識や思考力を駆使して1つの目的に向かうという貴重な経験を今後十分に生かしていければと思います。班員はじめ、研究に協力してくださった方々に心より感謝申し上げます。



3年最優秀グループ発表の様子

「流行曲」と人間心理や世相

2年 今野 心麗みれい

インターネットの普及により、流行の寿命は極端に短くなり、「流行曲」を取り巻く環境の変化も目まぐるしいものとなっている。

私は以前から、流行と、その根源にある人間の心の動きとの関わりに興味があった。特に音楽における「流行」には、単に楽曲の良さや歌手の魅力だけでなく、世相や風俗、社会情勢なども関わっているのではないかと考えているのではないだろうか。そう考え、それを研究のテーマに据えることとした。

近年の年度ごとの流行曲をテンポや調、メロディーの構成音などの視点から分析したところ、コロナウイルスの蔓延や社会・景気の動向など、その時々々の社会の様子との関連が見て取れた。しかし、今回見いだせたものは、この問いに対する答えのほんの一部に過ぎない。いま実際に起こっている「流行」の変遷には、この研究で調査した要素とは全く異なるものも深く関わっているはずなのだ。

この探究活動から私は、一つの問いが持つ奥深さや、視点を変えるだけで見えるようになる世界の広さを知ることができた。安易に答えに飛びつかず「探究」を続けることがいかに大切なのかを感じることものできる機会だった。

流行曲の変遷とその背景

D 2年 今野心麗

①背景
「アイドル」(YOASOBI)の世界的、爆発的なヒットや、海外での日本のシティポップの流行、世界を巻き込んだK-POP人気、近年の邦楽の流行は世界規模で大きく動き、これまでにないような姿を見せている。これだけの動向のきっかけとなるのは何年なのか、注目される「流行曲の変遷の背景に注目する」。これらについて調べてみたいと思った。

②BPM BPMとは音楽の速さ(1分あたりの拍数)を示す指標。人間の心拍数に近いほど「心地の良いBPM」であると言われている。近年の平均的な心拍数は60~100であるため、本研究中に用いた曲のBPMはほぼこの範囲に設定されたものとなっている。

③2022,23年のヒット曲上位は、6曲すべてBPM150以上であった。 その一方で、コロナ禍(2019年~21年)には遅いBPMの曲、さらには緩いテンポの曲のランクインが多かった。

近年のアップテンポな曲の流行の背景には、TikTok等の短い動画プラットフォームや、動画配信サービス(YouTube)が関係していると考えられる。**【安心】「流行曲の変遷」をテーマに、その背景を調査する。**

逆に言えば、コロナ禍の流行曲は、ステイホームで時間を余暇がなくなったこと、不安の多い状況の中で心の安楽を求めたことによるものと考えられる。

④コロナ後音楽 今回は1冊の雑誌を抽出し調査した。ランキングにおけるコロナ後音楽の出現回数、**【安心】「流行曲の変遷」をテーマに、その背景を調査する。**

コロナ禍(「ステイホーム」)の期間が長く、動画配信サービスの利用が進み、**【安心】「流行曲の変遷」をテーマに、その背景を調査する。**

コロナ禍に入ってから国内のアニメ市場が盛り上がり、**【安心】「流行曲の変遷」をテーマに、その背景を調査する。**